

# 生徒が自分の考えを調整し、考えを深めることができる 社会科学習指導の工夫

—— 自分の考えを自己評価する活動を取り入れることを通して ——

長期研修員 小柴 瑛

## 《研究の概要》

本研究は、評価を生かした学習改善の実現を視野に、自分の考えを自己評価する活動を通して、単元を貫く課題に対する自分の考えを調整し、考えを深めることができる生徒の育成を目指したものである。

具体的には、以下の二つの手立てを通して、本主題に迫ることとする。

- 1 単元の追究する過程の各単位時間の終末において、単元を貫く課題に対する最初にもった自分の考えを、各単位時間の学習内容を通して生徒が自己評価する活動を取り入れる。
- 2 単元のまとめる過程において、単元を貫く課題に対する追究を基にもった自分の考えを、他者との交流を通して生徒が自己評価する活動を取り入れる。

**キーワード** 【社会—中 自己評価 考えの調整 考えを深める】

## I 主題設定の理由

令和3年度から完全実施となった学習指導要領（平成29年3月公示）では、学習評価の充実において学習評価を児童生徒の資質・能力の育成に生かすことの重要性が明確に示された。一方、学習評価の現状について、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（中央教育審議会 平成31年1月 以下、報告）では、「評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない」などの課題が指摘されている。研究協力校でも、評定をつけるために評価を利用している側面が大きく、教師が生徒の学習改善に評価を十分生かすことができていないという課題がある。また、評価は評定に直結するものという生徒の意識も根強く、評価が学習改善につながるものであるという意識は弱い。

このような現状を受け、報告では、学習評価の改善の基本的な方向性の中で、「① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、② 教師の指導改善につながるものにしていくこと、③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと」の三点が、学習評価の在り方として示された。注目すべき点は、評価の目的として児童生徒の学習改善が強調されたことであり、児童生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために評価を行うことが一層重視されたということである。そこで、評価を生かした学習改善を視点として、研究を進めることにした。

評価を生かした学習改善を児童生徒の側から捉えると、児童生徒一人一人が自らの学習状況を振り返り、その結果を自らの学習の改善に生かしていくことである。そのため、児童生徒には、教師の評価を基に学習を改善することはもちろん、自ら評価したことを基に学習を改善する力も求められている。この児童生徒が主体となる評価方法が、自己評価である。そこで、この自己評価を学習活動として取り入れることで、単元というまとまりの中で、児童生徒が主体的に学習改善を図ることができるのではないかと考えた。

本研究ではまず、中学校社会科において、「単元を貫く課題に対する自分の考えを調整し、深めること」を学習改善の具体的な姿とした。次に、学習改善の手立てとして、単元を通して自分の考えを自己評価する活動を取り入れることにした。この際、学習の総括の場面ではなく、学習の過程において自分の考えを自己評価することで、単元の終末には、自己評価を生かして自分の考えを調整し、調整を基に考えを深めた姿が表われるのではないかと考えた。

具体的には、単元の追究する過程の各単位時間の終末において、単元を貫く課題に対して最初にもった自分の考えを、各単位時間の学習内容を通して自己評価する活動を取り入れる。さらに、単元のまとめる過程において、追究を基にもった自分の考えを、他者との交流を通して自己評価する活動を取り入れる。このような活動を通し、生徒は自己評価をきっかけに、自分の考えを学習内容や他者の考えと比較、関連付けることができる。そして、学習内容を根拠にしたり他者の考えから得た新たな気づきを基にしたりしながら自分の考えを見直し練っていく。この考えの調整を基に自分の考えを再構成したり新しい考えを形成したりすることで、最終的な考えには、学習内容を根拠にし、多様な意見を踏まえているなどの、考えを深めた姿が表われることが期待できる。この姿が自己評価を生かした学習改善が実現した姿であり、思考力という資質・能力の育成に評価を生かすことができた姿と言える。また、このような活動により、生徒が自己評価を生かして考えを調整し、考えを深めることができれば、自己評価が単なる振り返りで終わらず、学習改善に有効であるという生徒の意識の変化につながると考える。

以上のことから、本研究では、評価を生かした学習改善の実現を視野に、生徒が自分の考えを自己評価する活動を取り入れることで、生徒が自分の考えを調整し、考えを深めることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

中学校社会科において、生徒が単元を貫く課題に対する自分の考えを調整し、考えを深めることができるようにするために、単元を通して自分の考えを自己評価する活動を取り入れることの有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究の仮説（研究の見通し）

単元を通して自分の考えを自己評価する活動を取り入れれば、生徒が自己評価を生かして単元を貫く課題に対する自分の考えを調整し、考えを深めることができるであろうと考え、以下の仮説を立てる。

- 1 単元の追究する過程の各単位時間の終末において、単元を貫く課題に対する最初にもった自分の考えを、学習内容を通して生徒が自己評価する活動を取り入れれば、自分の考えと新しい知識が関連付けられ、学習内容を根拠として自分の考えを確認・修正して考えを再構成することになり、単元を貫く課題に対する自分の考えを、学習して得た新しい知識や気づきを基に調整し、深めていくことに有効であろう。
- 2 単元のまとめる過程において、単元を貫く課題に対する追究を基にもった自分の考えを、他者との交流を通して生徒が自己評価する活動を取り入れれば、自分の考えと他者の考えが比較、関連付けられ、他者の考えを参考に自分の考えを確認・修正して考えを再構成したり、新しい考えを形成したりすることになり、単元を貫く課題に対する自分の考えを、多様な意見や新たな気づきを踏まえて調整し、深めていくことに有効であろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 文言の定義

###### ① 「自己評価」とは

本研究では、生徒自身が評価の主体となって自分の考えを振り返り、自分の考えの調整につなげるための学習活動を自己評価とする。具体的には、単元を貫く課題に対する自分の考えを、「学習内容（新しい知識）」や「他者の考え（異なる立場や考え）」と照らし合わせて振り返り、自分の考えが「このままでよい」か「修正が必要」か判断し、考えの調整につなげる活動のことである。

###### ② 「自分の考えを調整する」とは

単元を貫く課題に対する自分の考えを、学習内容や他者の考えと比較、関連付けて自分の考えを確認したり、必要に応じて修正したりして考えを見直し、練っていくことである。

###### ③ 「自分の考えを深める」とは

単元を貫く課題に対して最初にもった自分の考えを、学習内容や他者の考えと比較、関連付けて調整し、それを基に考えを再構成したり、新しい考えを形成したりすることである。本研究における、単元を貫く課題に対する最終的に深まった考えとは、単元の課題に対する自分の考えの根拠が明らかで、多様な意見を踏まえた考えのことである。

##### (2) 手立ての説明

###### ① 単元を通して自分の考えを自己評価する活動

単元を貫く課題に対する自分の考えは、様々な社会的事象や価値観と照らし合わせ、自分の考えを確認したり修正したりして見直し、考えを練っていくことで深まっていく。そこで、単元の学習活動の中に、自分の考えを調整し、考えを深めるための評価活動（以下ア、イ）を取り入れる。

###### ア 学習内容を通して自分の考えを自己評価する活動

ここでいう自分の考えとは、単元を貫く課題に対する最初にもった考え（見通し・予想）のことである。最初にもった自分の考えは、その後学習する新しい知識と出会うことや、多面的・多角的に課題を追究していくことを通して見直され、深まっていく。

そこで、追究する過程の各単位時間の終末において、生徒が学習内容を通して自分の考えを自己評価する活動を取り入れる。生徒は、最初にもった自分の考えを各単位時間の学習内容と照らし合わせ、自分の考えは「このままでよい」か「修正が必要」か自己評価する。それにより、自

分の考えと新しい知識が関連付けられ、学習内容を根拠に自己評価を行うことができる。また、その判断理由を各単位時間の学習で得た新しい知識や気付きと関連付けて書くことができる。

この評価活動により、生徒は自分の考えを新しい知識と関連付け、学習内容を根拠に自分の考えを確認、修正し、考えを再構成することができる。つまり、学習して得た新しい知識や気付きを基に考えを調整し、考えを深めることができる。と考える。

### イ 他者との交流を通して自分の考えを自己評価する活動

ここでいう自分の考えとは、単元を貫く課題に対する多面的・多角的な追究を基に、学習内容を根拠にしてもった考えのことである。一旦作り上げた自分の考えは、様々な価値観や異なる考えと比較、関連付けられることで見直され、更に深まっていく。

そこで、まとめる過程において、生徒が他者との交流を通して自分の考えを自己評価する活動を取り入れる。生徒は、一旦作り上げた自分の考えを他者の考えと照らし合わせ、自分の考えは「このままでよい」か「修正が必要」か自己評価し、最終的な結論を出す。この自己評価の判断材料となるよう、交流の際は、自分の考えは「根拠が明らかで、他の人にとって納得できるものか」「様々な立場から考えることができ、偏っていないか」を視点として与える。また、他者の判断や考えに至った理由に着目させ、共通点や相違点、新たな気付きを発見できるようにする。

この評価活動により、生徒は自分の考えを他者の考えと比較、関連付け、他者の考えを参考に自分の考えを確認、修正し、考えを再構成したり、新しい考えを形成したりすることができる。つまり、多様な意見や新たな気付きを基に考えを調整し、考えを深めることができる。と考える。

ア、イの活動により、自己評価をきっかけに自分の考えを調整し、考えを深めることができれば、自己評価が学習改善に有効であると、生徒が実感することにもつながると考える。

## ② 生徒の自己評価を教師が学習改善のための支援に生かす活動

①アの評価活動では、生徒が自分の考えを自己評価した際の判断理由について、学習内容と関連付けて書くことができているかを、ワークシートの記述から見取る。関連付けることができている生徒には、ワークシートのコメントで随時フィードバックして改善を促し、学習内容を根拠に自分の考えを調整することができるようにしていく。

①イの評価活動では、生徒が追究を基にもった考えを ICTを活用して全員に提出させ把握する。自分の考えをもつことが苦手な生徒には、ワークシートを基にこれまでの追究の様子を振り返らせることで、学習内容を根拠に自分の考えをもつことができるようにしていく。また、他者との交流後に自分の考えを自己評価し結論をまとめる場面では、交流で得た新たな気付きをワークシートに記入できているか見取る。記入ができていない生徒や、一面的な見方しかできていない生徒には、自己評価の視点や ICTを活用して共有した他者の考えの根拠に着目させて再考を促し、多様な意見や新たな気付きを踏まえて自分の考えを再考できるようにしていく。

## ③ 自己評価による考えの調整過程を可視化するワークシート（図1 別添資料①②参照）

単元を貫く課題に対する自分の考えの変容や調整の過程を、単元を通して追うことができるワークシートを活用する。単元のつかむ過程では、単元を貫く課題に対する最初の自分の考え（予想・見通し）を、追究する過程では、各単位時間の終末の自己評価の様子を記入する単元のワークシートとして活用する。また、まとめる過程では、授業のワークシートとして活用する。単元を通して自分の考えを自己評価し考えを調整してきたことを振り返ることができる。単元の最後には、最初にもった自分の考えと最終的な自分の考えを比べることができる。これにより、自分の考えを自

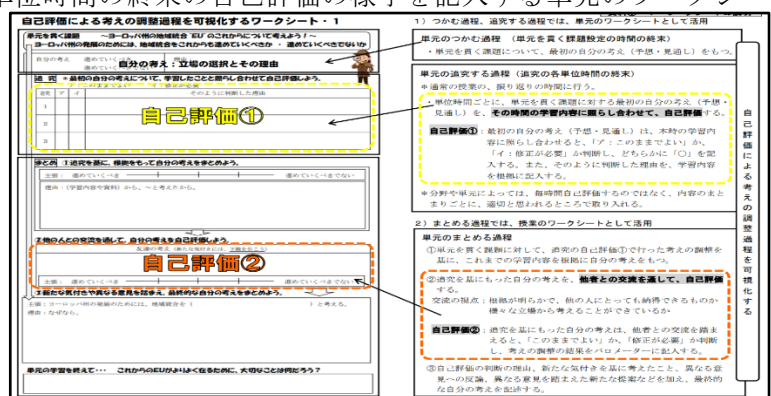
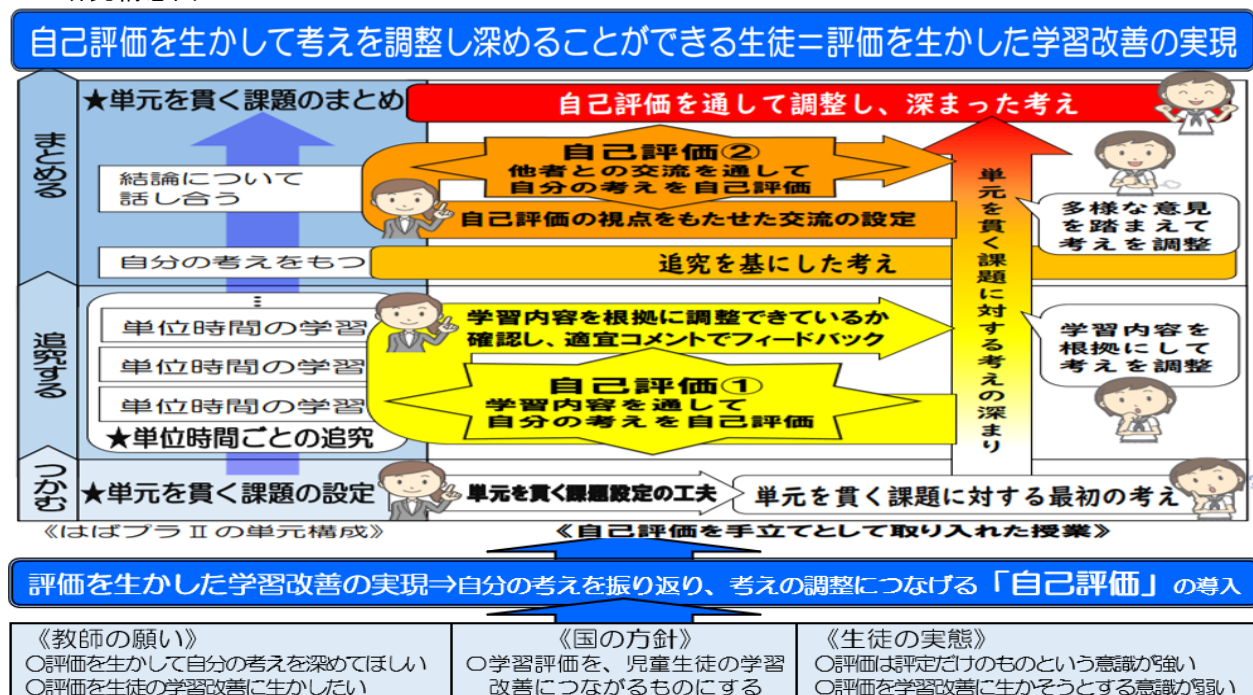


図1 自己評価による考えの調整過程を可視化するワークシート

己評価する活動が、自分の考えを調整し、考えを深めるという学習改善に役立つと生徒が実感することにつながると考える。

## 2 研究構想図



## V 研究の計画と方法

### 1 授業実践の概要

#### (1) 実践授業 I

対 象	研究協力校 中学校第1学年 121人
実 践 期 間	令和3年10月18日(月)～11月5日(金) 6時間
単 元 名	「世界の諸地域(ヨーロッパ州)」
単元の目標	地域内の結び付きに着目し、ヨーロッパ州で見られるEU統合に関わる課題の要因や影響を、ヨーロッパ州に暮らす人々の生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

#### (2) 実践授業 II (指導案提供)

対 象	研究協力校 中学校第1学年 121人
実 践 期 間	令和3年11月8日(月)～11月19日(金) 5時間
単 元 名	「世界の諸地域(アフリカ州)」
単元の目標	地域の広がりや結び付きに着目し、アフリカ州の発展途上国が抱える貧困という課題の要因や影響を、アフリカ州に暮らす人々の生活と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

### 2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	単元の追究する過程の各単位時間の終末において、単元を貫く課題に対する最初にもった自分の考えを、学習内容を通して生徒が自己評価する活動を取り入れたことは、単元を貫く課題に対する自分の考えを、学習して得た新しい知識や気づきを基	○学習内容と照らして評価した自分の考えの変容の分析

	に調整し、深めていくことに有効であったか。	○他者との交流 前後の自分の 考えの変容の 分析 ○事後アンケート 分析
見通し2	単元のまとめる過程において、単元を貫く課題に対する追究を基にもった自分の考えを、他者との交流を通して生徒が自己評価する活動を取り入れたことは、単元を貫く課題に対する自分の考えを、多様な意見や新たな気づきを踏まえて調整し、深めていくことに有効であったか。	

### 3 評価規準

#### (1) 実践授業Ⅰ

評価規準	知識・技能	ヨーロッパ州に暮らす人々の生活を基に地域的特色を大観し、EU統合に関わる課題が地域的特色の影響を受けて、独自の様相を見せていることを理解している。
	思考・判断・表現	地域内の結び付きに着目し、EU統合に関わる課題の要因や影響をヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察することを通し、ヨーロッパ州が今後地域統合を更に進めるべきかどうか判断し、根拠を明らかにして自分の考えを表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	ヨーロッパ州において、持続可能な社会の実現を視野に地域統合に関わる課題を主体的に追究しようとしている。

#### (2) 実践授業Ⅱ（指導案提供）

評価規準	知識・技能	アフリカ州に暮らす人々の生活を基に地域的特色を大観し、発展途上国が抱える課題が地域的特色の影響を受けて、独自の様相を見せていることを理解している。
	思考・判断・表現	地域の広がりや結び付きに着目し、発展途上国が抱える課題の要因や影響をアフリカ州の地域特色と関連付けて多面的・多角的に考察することを通し、アフリカ州の貧困問題解決のために日本がどう関わっていけばよいか判断し、根拠を明らかにして自分の考えを表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	アフリカ州において、持続可能な社会の実現を視野に発展途上国の自立と支援に関わる課題を主体的に追究しようとしている。

### 4 指導計画（全6時間予定） 評価の観点「○」は評定に用いる評価、「●」は指導に生かす評価

時程 (次)	過程	学習活動 *本研究に係る手立てを取り入れた学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法)
			知	思	態	
第1時 ～ 第2時	つかむ	<b>[本時の学習課題]</b> <b>ヨーロッパ州は、どのような特色をもった地域なのだろう？</b> ・ヨーロッパ州の自然環境、産業、生活・文化について諸資料を読み取り、多様性をもつヨーロッパ州の特徴について大観する。	●			●複数の資料から、ヨーロッパ州の特徴を読み取っている。 (ワークシート)
		<b>[本時の学習課題]</b> <b>なぜ、多様性をもつヨーロッパ州で統合が進んだのだろう？</b> ・欧州旗やユーロを例に、多様性をもつヨーロッパ州で地域統合が進んでいることに着目し、EU統合の背景と理由について、歴	●			●EU統合の背景とその理由の追究を基に、統合の意義を理解している。 (ワークシート)

		<p>史や地理的条件、経済面から多面的に追究し、統合の意義を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合が進む一方、離脱した国があることに着目し、単元を貫く課題を設定する。</li> </ul>			
<b>単元を貫く課題 ヨーロッパ州の発展のためには、地域統合をこれからも進めていくべきか、進めていくべきでないか。</b>					
		<p>*単元を貫く課題に対し、最初の自分の考え（予想）をもつ。</p>		●	<p>●単元を貫く課題に対する予想を立て学習を通して明らかにしようとしている。 (ワークシート)</p>
第3時 ～ 第5時	追究する	<p><b>[本時の学習課題]</b> <b>EU統合によって、人々の生活はどのように変化したのだろうか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・EUの政策について、統合の背景や意義、諸資料を基に理解する。</li> <li>・EU統合が人々の生活にもたらした変化について、人の移動、物の移動、通貨、政治の四つの視点におけるEUの政策と関連付けて多面的・多角的に考察する。</li> </ul> <p>*単元を貫く課題に対してもった最初の自分の考え（予想）を、本時の学習内容に照らし合わせて評価し、判断した理由をワークシートに記入する。</p>	●	●	<p>●EU統合が人々の生活にもたらした変化を、政策と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 (ワークシート)</p> <p>●予想を学習内容に照らし合わせて評価し、自分の考えを調整している。 (ワークシート)</p>
		<p><b>[本時の学習課題]</b> <b>EU統合によって、産業はどのように変化したのだろうか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・EU統合が産業にもたらした変化についてよさ（効果）と問題点（課題）に着目し、EUの産業に対する政策や取組と関連付けて多面的・多角的に考察する。</li> </ul> <p>*単元を貫く課題に対してもった最初の自分の考え（予想）を、本時の学習内容に照らし合わせて評価し、判断した理由をワークシートに記入する。</p>	●	●	<p>●EU統合が産業にもたらした変化を政策や取組と関連付けて多面的・多角的に考察している。 (ワークシート)</p> <p>●予想を学習内容に照らし合わせて評価し、自分の考えを調整している。 (ワークシート)</p>
		<p><b>[本時の学習課題]</b> <b>EU統合の進展は、どのような課題をもたらしたのだろうか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・EU加盟国間の結び付きや関わりについて、諸資料や加盟国、離脱国など様々な立場の国の意見から多面的・多角的に考察し、EU統合の進展によって生じてい</li> </ul>	○		○EU加盟国間の結び付きや関わりについての多面的・多角的な考察を基に、EU統合の進展によって生じている課題について

		<p>る課題を理解する。</p> <p>*単元を貫く課題に対してもった最初の自分の考え（予想）を、本時の学習内容に照らし合わせて評価し、判断した理由をワークシートに記入する。</p>		<p>●</p> <p>● 予想を学習内容に照らし合わせて評価し、自分の考えを調整している。（ワークシート）</p>
第6時	まとめる	<p><b>[本時の学習課題]</b>  <b>ヨーロッパ州の発展のためには、地域統合をこれからも進めていくべきか、進めていくべきでないか。</b>  <b>（単元を貫く課題）</b></p> <p>・これまでの追究を基に、単元を貫く課題に対する自分の考えを、根拠を明らかにしてまとめる。</p> <p>*自分の考えを他者との交流を通して評価し、新たに気付いたことや多様な意見を踏まえて自分の考えを再考しまとめる。</p> <p>・単元全体の振り返りとして、これからのEUにとって大切なことは何かについて考えたことをまとめる。</p>	○	<p>○ ヨーロッパ州の地域統合のこれからについて、追究を基にもった自分の考えを、他者との交流を通して自己評価し、新たな気付きや多様な意見を踏まえて調整し表現している。（ワークシート）</p> <p>○ 持続可能な社会の実現を視野に、単元の学習を振り返り、EUの将来について自分の考えをもっている。（ワークシート）</p>

## VI 研究の結果と考察

### 1 検証の観点1

単元の追究する過程の各単位時間の終末において、単元を貫く課題に対する最初にもった自分の考えを、学習内容を通して生徒が自己評価する活動を取り入れたことは、単元を貫く課題に対する自分の考えを、学習して得た新しい知識や気付きを基に調整し、深めていくことに有効であったか。

#### (1) 実践の概要

まず、自分の考えを深めるためには、基準となる最初の考えをもつ必要がある。そこでヨーロッパ州の単元では、自分の考えをもちやすいよう、二者択一で自分の立場を選ぶことができる課題を単元を貫く課題として設定することにした。そして、つかむ過程で、生徒の疑問を基に「ヨーロッパ州の発展のためには、地域統合をこれからも進めていくべきか、進めていくべきでないか」という単元を貫く課題を設定し、課題に対する最初の考え（立場の選択とその理由）をもたせた。

次に、追究する過程で、単元を貫く課題に対し、EU統合による生活への影響、産業への影響、統合により生じた課題という視点から、多面的・多角的に追究する授業を行った。これらの追究する過程の各単位時間の終末では、最初にもった自分の考えを、学習内容と照らして「このままでよい」か「修正が必要」か自己評価させ、そのように判断した理由について学習内容を根拠に記入させた。生徒が自己評価をきっかけに、新しい追究の視点ごとに自分の考えの調整を図った過程は、一枚のワークシートに蓄積されていくようにした。

#### (2) 結果

二者択一の単元を貫く課題に対し、全員が最初の自分の考えとして、立場を選択することができ



た。選択の理由については、つかむ過程で学習したEU統合の意義やイギリスのEU離脱などから予想してほとんどの生徒が書くことができたが、理由を書くことができない生徒が7名いた。

追究する過程の各単位時間の終末で、生徒が学習内容を通して最初にもった自分の考えを自己評価した結果、多くの生徒が自分の考えと新しい知識を関連付け、判断の理由を記入することができた。追究の1時間目では判断の理由を学習内容と関連付けて書くことができなかった生徒も、教師がワークシートにコメントを付けてフィードバックを行ったことで、改善を図ることができた。また、自分の考えを自己評価し調整する過程で、新たな疑問や提案、西ヨーロッパや東ヨーロッパなどの立場に立った意見、メリットやデメリットといった視点での判断、前単元のアジア州の学習と関連付けた考えなども見られるようになった。追究の時間を通して自己評価を繰り返した結果、最終的には全員の生徒が自分の考えと新しい知識を関連付け、学習内容を根拠に最初にもった自分の考えを確認したり、考えの修正をしたりして考えを見直し、練っていくことができた。図2、3には、自己評価をきっかけに自分の考えを調整し、考えを深めることができた生徒の様子を示す。

生徒A

考える課題 ～ヨーロッパ州の地域統合「EU」のこれからについて考えよう！～

ヨーロッパ州の発展のためには、地域統合をこれからも進めていくべきか・進めていくべきでないか

自分の考え 進めていくべき  
進めていくべきでない

理由: もともと経済発展をするために統合したので、  
そのため、デメリットが99%しかない。

追究 \*最初の自分の考えについて、学習したことと照らし合わせて自己評価しよう。  
ア: このままでよい イ: 修正が必要

追究	ア	イ	そのように判断した理由
1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	貿易や観光業が盛んになり、目指していた=経済発展ができたから。また、パスポートを廃止することで、交通・通関が便利になり、生活が便利になったから。
2	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	西ヨーロッパはカリが完成し、それは、EU東ヨーロッパ補助金をあげ、EUの手厚が圧迫され、ヨーロッパはEU経済格差が広がったから。
3	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	EUは経済発展をするべきではないけど、それは、EU経済格差が広がってしまっているから。

図2 自己評価により、考えを調整し深めている様子(生徒A)

図2の生徒Aは、最初にもった「進めていくべき」という考えが、各追究の時間の学習内容と照らし合わせて自己評価した結果、変容した。自己評価により自分の考えと新しい知識を関連付け、学習して気付いたEUのよさ(図2赤色下線)やEUの課題(図2青色下線)を基に判断した理由を書いており、学習内容を根拠に考えの調整を行うことができています。

生徒B

考える課題

自分の考え 進めていくべきでない  
進めていくべき

理由: イギリスがEUから離脱してしまっ、たどこうて  
とは、EUで何か問題、不満が生ずってしまったから。

追究 \*最初の自分の考えについて、学習したことと照らし合わせて自己評価しよう。  
ア: このままでよい イ: 修正が必要

追究	ア	イ	そのように判断した理由
1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	国境の通過が自由になったり、関税がかからなかったりとよいことがたくさんあるし、より過ごしやすいいところになっているのはよいのですが…(一部抜粋)
2	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	東ヨーロッパにも補助金はあたえられており、だんだんと産業が発展しているとともに西ヨーロッパも発展しており、差はなくなってこのままだと差は縮まることはないのでは、ないのかと入るから。
3	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	このままEUの活動を続けてしまうと経済格差が広がっていきばかりで…(一部抜粋)

図3 自己評価により、考えを調整し深めている様子(生徒B)

図3の生徒Bは、最初にもった「進めていくべきでない」という考えが、各追究の時間の学習内容と照らし合わせて自己評価した結果、変容しなかった。しかし、図3の黄色下線に見られるように、学習した内容を基に、EUのよさを踏まえた上での反論やEUの課題を踏まえてこのままだと

どうなりそうかという予測を考えることができている。生徒Bは、学習内容を根拠に最初にもった自分の考えを確かなものにすると同時に、考えの調整を図る中で、反論や予測などの新しい考えを形成することもできた。

また、立場の選択はできたが理由を書くことができなかつた7名の生徒も、自己評価により自分の考えを新しい知識と関連付け、各単位時間のまとめのキーワードやEUのよさや課題を基に考えの確認や修正を行うことで、学習内容を根拠に判断の理由を書くことができるようになった。

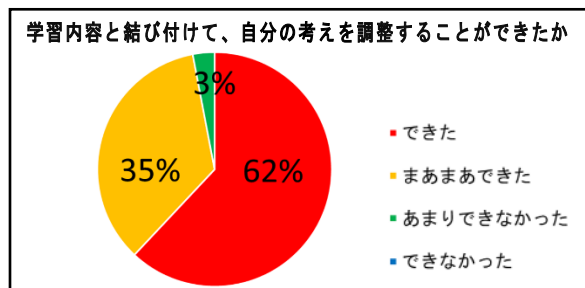


図4 学習後に行った生徒へのアンケート

図4の学習後に行った生徒へのアンケートでは「学習内容と結び付けて、自分の考えを調整することができたか」という問いに対し、62%が「できた」、35%が「まあまあできた」と回答した。また、「自己評価を行ったことは、どんなことに役立ったと思うか」というアンケートの回答のうち、学習内容を通して自己評価する活動に関する記述は、図5の通りである。

- 「自己評価を行ったことは、どんなことに役立ったと思うか」（自由記述の一部抜粋）
- ・自分の考えをより明確にすること
  - ・自分の考えをしっかりとつこと
  - ・自分の考えを見直すこと（修正）
  - ・自分の意見に自信をもつこと
  - ・学習内容を振り返りながら自分の考えを整理すること
  - ・自分が思ったことが正しいのかを調べる、考えること
  - ・自分の意見を修正したときにいろいろな見方から見る
  - ・自分の考えが学習内容とどのようにつながっているのか確認すること
  - ・考えを深めること
  - ・自分の意見を更に深く考えること

図5 学習後に行った生徒へのアンケート（自由記述）

### (3) 考察

生徒が最初にもった自分の考えを深めることができたのは、学習内容を通して自分の考えを自己評価したことをきっかけに、新しい知識と自分の考えが関連付けられ、学習内容を根拠に考えの調整を図ることができたからだと考える。

最初に自分の考えをもたせ、自己評価という手立てをきっかけに自分の考えを学習内容と意図的に関連付けさせたことで、生徒は学習して得た新しい知識や気づきを基に自分の考えを見つめ直すことができた。前ページ図2、3からは、学習内容を基に自分の考えを確認したり、必要に応じて修正したりする調整の様子が見られ、新しい知識と自分の考えを関連付けることが、学習内容を根拠に考えを見直し練っていくことに役立ったと考えられる。また、判断の理由の記述には、メリット・デメリットの視点から自分の考えの調整を図る様子、新たな疑問や提案、図3の生徒Bに見られる反論や予測なども見られるようになった。これは、生徒が追究の過程で多面的・多角的に学習した内容を通して自分の考えを自己評価したことで、様々な視点から自分の考えを見つめ直し、考えが深まっていった様子と言える。つまり、学習内容を通して自分の考えを自己評価することは、多様な見方や広がった視点から考えの確認や修正を繰り返すことになり、新しい考えの形成につながったと考えられる。その結果、図5に見られるように、自己評価は自分の考えの整理や明確化、修正、深めることに役立ったという実感を、生徒がもつことができたと考える。

これらのことから、学習内容を通して自分の考えを自己評価することをきっかけに、自分の考えと新しい知識が関連付けられ、多様な見方や広がった視点から自分の考えの確認や修正を繰り返したことで、学習内容を根拠に自分の考えをもったり、新しい考えを形成したりすることができたと言える。そのため、学習内容を通して生徒が自分の考えを自己評価する活動を取り入れたことは、学習して得た新しい知識や気づきを基に自分の考えを調整し、自分の考えを深めていくことに有効であったと考える。

## 2 検証の観点2

単元のまとめる過程において、単元を貫く課題に対する追究を基にもった自分の考えを、他者との交流を通して生徒が自己評価する活動を取り入れたことは、単元を貫く課題に対する自分の考えを、多様な意見や新たな気付きを踏まえて調整し、深めていくことに有効であったか。

### (1) 実践の概要

まず、まとめる時間の最初に、追究する過程で行った自己評価を基に、改めて単元を貫く課題に対する立場を選択させ、その理由についてまとめさせた。

次に、追究を基にもった自分の考えを、他者との交流を通して自己評価する活動を行った。交流の際は「根拠が明らかで、他の人にとって納得できるものか」「様々な立場から考えることができるか」を考えの調整につなげる自己評価の視点として与えた。また、交流を通して他者の考えと自分の考えを比較、関連付け、新たな気付きや参考にした点を見付けてくるよう指示した。

その後、最終的な判断として、自分の考えが「このままでよい」か「修正が必要」か自己評価させた。そして、交流を通して得た新たな気付きや多様な意見を踏まえて考えを調整させ、最終的な考えをまとめさせた。この際「①根拠をより明らかにする、②友達の意見を踏まえて考えを書く、③反論や提案を入れる」の三点を、考えを深めるポイントとして示し、再考させた。

### (2) 結果

まとめる時間の最初の、追究を基に改めて自分の考えをもつ場面では、追究する過程で学習内容を通して自己評価を繰り返したことを基に、全員の生徒が学習内容を根拠に自分の考え（立場を選んだ理由）を書くことができた。またこの段階で、33%の生徒が、学習内容を根拠にしていることに加え、多様な立場を踏まえて理由を書くことができた。一方、学習内容を根拠にして考えを書くことはできたが、根拠が具体的でない生徒は6%いた。

他者との交流では、異なる立場の意見に触れることで、自分の考えと他者の考えを比較、関連付けて考えを変える姿や、同じ主張の人の意見を聞いたり異なる立場の生徒への反論を考えたりする中で自分の考えや根拠を確かなものに行っている姿などの、考えの調整を図る姿が見られた。

他者との交流を通して自分の考えを自己評価し、多様な意見や新たな気付きを踏まえて自分の考えを調整し、考えを深めることができた生徒の様子を、図6、7に示す。

生徒C ①追究をもとに、根拠を持って自分の考えをまとめよう。

主張: 進めていくべき	進めていくべきでない
理由: (学習内容や資料) から、~と考えたから。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東ヨーロッパの労働者が、西ヨーロッパに移動してしまうため <u>経済格差</u>ができてしまうから。</li> </ul>	

他者との交流を通じた自己評価

主張: 進めていくべき	進めていくべきでない
理由: なぜなら、	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東ヨーロッパの補助金の増額がEUの財政を圧迫しているから。</li> <li>● 西から東への労働者が、かんたんに移動してしまうから、<u>西は移民が増え仕事が増えるから</u>、東は、<u>はたらくてくれる人が減ってしまうから</u>。</li> </ul>	

図6 考えの深まりの様子（生徒C 一部抜粋）

図6の生徒Cは、他者との交流を通して異なる立場の意見を聞いた上で、自分の考えを「このままでよい」と自己評価し、「進めていくべきでない」という自分の考えをより強くした。そして、異なる立場の人が納得するよう、「進めていくべきでない」と考えた根拠をより具体的に示したり（図6赤色下線）、交流で得た新たな気付きを基に考えを追加したり（図6青色下線）し、考えを再構成することができた。

生徒D

①追究をもとに、根拠を持って自分の考えをまとめよう。

主張： 進めていくべき + | | | | | 進めていくべきでない

理由：(学習内容や資料) から、~と考えたから。

EU統合したことで、人・物・お金の国境をこえた移動の自由がきくようになった。  
 おかげで貿易がしやすくなり、GDPがアメリカと並ぶほどになった。  
 だが、西ヨーロッパと東ヨーロッパの経済格差が問題点だと思う。

他者との交流を通じた自己評価

主張： 進めていくべき + | | | | | 進めていくべきでない

理由：なぜなら、

EU統合したことで貿易がしやすくなりGDPがアメリカと並ぶほどになったから進めていくべきだと思う。  
「経済格差が拡大してしまっているため進めていくべきではない」という意見は、豊かになるヨーロッパの国が豊かになるよりも東ヨーロッパの国が豊かになることが大切だ。  
また、早く経済格差が拡大してしまっている。だから、EU統合している国が経済格差を縮小してあげよう。

図7 考えの深まりの様子(生徒D 一部抜粋)

図7の生徒Dは、交流で自分でも課題だと思っていた経済格差について、異なる立場の生徒から指摘を受けて議論になり、同じ立場の生徒と反論を考えていた。交流の結果、異なる立場の意見を踏まえ、進めていかなかったらこうなるだろうという予測(図7青色下線)や、課題に対する提案(図7黄色下線)を考え、最終的に「進めていくべき」と判断した理由をまとめることができた。

全生徒の最終的な考えについて、記述を基に分析すると、他者との交流を通して自己評価し、考えの調整を基に考えが深まった様子は、図8の四つのパターンに分けることができる。

生徒の考えが深まった様子(1~4の要素が複数入っている考えもある)

- 1 根拠がより確かな考えになっている
- 2 多様な意見を踏まえた考えになっている
- 3 考えの変容を、根拠を基に述べている
- 4 反論や提案を含めた考えになっている

図8 最終的な生徒の考えの分析(考えが深まった様子)

また、最終的な生徒の考えを、評定に用いる評価として教師が評価したとき(図9)、根拠が明らかで多様な意見を踏まえた考えを書くことができた(B基準以上)生徒の割合は、97%だった。一方、交流時の見取りやワークシートの記述からは、他者との交流を通して新たな気付きを得た様子が見られたり、考えのパロメーターから、自己評価により考えの確認や修正を行った様子が見られたりしたが、最終的な考えにそれらを踏まえた様子が見られなかった生徒が3%いた。

図10の学習後に行った生徒へのアンケートでは、「友達の見意見を参考にして、自分の考えを調整することができたか」という質問に対し、「できた」「まあまあできた」と答えた生徒の合計は94%と高い。次ページ図11の自己評価を取り入れた学習により「最初にもった自分の考えは、学習を終えて深まったと思うか」という

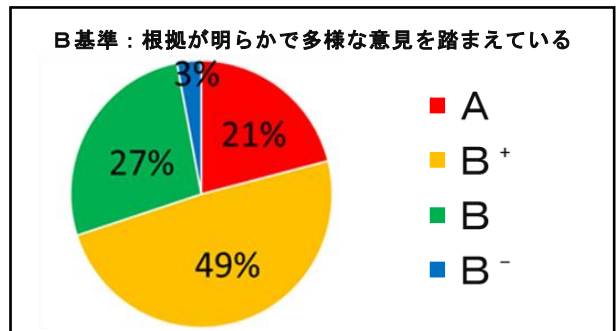


図9 最終的な考えの評価

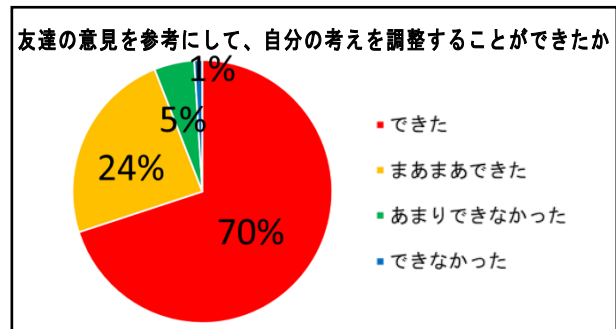


図10 学習後に行った生徒へのアンケート

アンケートでも、「思う」「まあまあ思う」と答えた生徒の合計は95%と高かった。また、この95%の生徒のほとんどが、「学習内容と結び付けたり、友達の意見を参考にしたりして自分の考えを調整することができたか」というアンケートで、肯定的な回答を示している。「自己評価を行ったことは、どんなことに役立ったと思うか」というアンケートの回答のうち、他者との交流を通して自己評価する活動に関する記述は、図12の通りである。

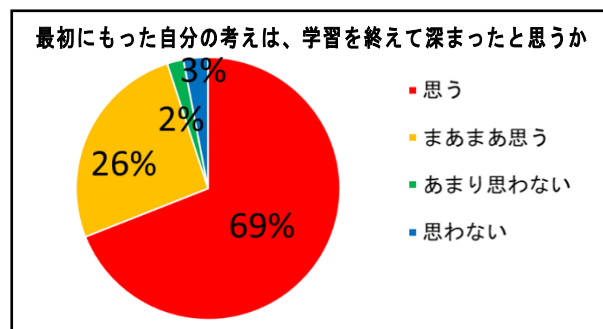


図11 学習後に行った生徒へのアンケート

「自己評価を行ったことは、どんなことに役立ったと思うか」 (自由記述の一部抜粋)

- ・いろいろな人の意見を取り入れて自分の意見を深めること
- ・友達の意見と比較することで自分の考えを改めること
- ・そういう意見もあるんだと気付くこと
- ・自分では思いつかなかったことを知ること
- ・考えをより深く考えること
- ・自分の意見への新しい発見
- ・自分の意見を考え直すこと
- ・新たな考えをもつこと

図12 学習後に行った生徒へのアンケート (自由記述)

### (3) 考察

生徒が追究を基にもった自分の考えを深めることができたのは、他者との交流を通して自分の考えを自己評価したことをきっかけに、他者の考えと自分の考えが比較、関連付けられ、多様な意見や新たな気付きを踏まえて考えの調整を図ることができたからだと考える。

前ページ図7の生徒の記述からは、自分の考えを自己評価するという視点で他者と交流することで、他者の考えや異なる立場の考えを自分の考えと比較、関連付け、自分の考えを確かなものにしたたり修正したりすることにつながることができた様子が分かる。また、自己評価したことを生かして考えの調整を基に再考させたことで、多様な意見や新たな気付きを踏まえて自分の考えを再構成したり新しい考えを形成したりすることができ、前ページ図8のような考えを深めた様子が表われたと考える。

交流の際は、自分の考えを自己評価するという視点をもたせたことで活動の目的がはっきりし、活発な意見交換や意見交流、議論が見られた。こうしたことが、前ページ図10に見られるように、多くの生徒が友達の意見を参考に考えの調整を図ることができたと実感することにつながったと考える。また、図12のアンケートでは、自己評価には学習を進める上で様々な効果があり、考えの調整に加え、深く考えたり新しい考えをもったりすることにも役立つという回答が見られた。前ページ図9の教師が見取った生徒の考えの深まりの様子や図11の考えが深まったという生徒の実感、そして、図12のアンケートから、自己評価は考えを調整し、考えを深めることに役立ったと言える。

これらのことから、他者との交流を通して自分の考えを自己評価することをきっかけに、自分の考えと他者の考えが比較、関連付けられ、多様な意見や新たな気付きを踏まえて自分の考えを確認したり修正したりし、それを基に自分の考えを再考したことが、根拠の明確化や反論、新たな提案を生み出し、考えを深めることにつながったと言える。そのため、他者との交流を通して生徒が自分の考えを自己評価する活動を取り入れたことは、多様な意見や新たな気付きを踏まえて自分の考えを調整し、考えを深めていくことに有効であったと考える。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

(1) 単元の追究する過程の各単位時間の終末において、単元を貫く課題に対する最初にもった自分の考えを、学習内容を通して生徒が自己評価する活動を取り入れたことで、生徒は自己評価をき

っかけに新しい知識と自分の考えを関連付け、学習内容を根拠として自分の考えを確かめたり、修正したりすることができた。さらに、単元を通して多様な視点から調整を繰り返すことで、単元を貫く課題に対する自分の考えを、学習して得た新たな知識や気付きと関連付けて深めていくことができた。

- (2) 単元のまとめる過程において、単元を貫く課題に対する追究を基にもった自分の考えを、他者との交流を通して生徒が自己評価する活動を取り入れたことで、生徒は自己評価をきっかけに他者の考えと自分の考えを比較、関連付け、他者の考えを踏まえて自分の考えをより確かなものにした。修正をしたりすることができた。さらに、それを基に考えを再構成したり新たな考えを形成したりすることができ、単元を貫く課題に対する自分の考えを、多様な意見や新たな気付きを踏まえて深めていくことができた。

(1)、(2)のように、単元を通して自分の考えを自己評価する活動を取り入れたことは、生徒が自己評価を生かして単元を貫く課題に対する自分の考えを調整し、考えを深めるという学習改善に有効であった。

## 2 課題

- 他者との交流を通じた自己評価が、どの生徒にとっても考えを深めることにつながるよう、誰と交流させるか、交流の形態をどうするか、どのような視点で交流させるかなど、交流の仕方や交流の際の自己評価の視点を、実態や単元を貫く課題の内容に合わせて工夫する必要がある。
- 自分の考えを再考する場面で、どの生徒も多様な意見を踏まえて考えを調整し、考えを深めた様子が記述に表れるよう、他者の考えに対する共感や反論について、根拠を含めて書くように指示するなど、多様な意見を踏まえることで考えが深まるポイントをより明確に示す必要がある。
- 単元の振り返りとして設定した「これからのE Uがよりよく在るために大切なことは何か」という問いに対し、こうしていったらよいという提案を多くの生徒が記述できていた。このことから、更に考えを深めるためには、交流を通じた自己評価後の再考の場面で、「よりよく在るためにどうしたらよいか」という、未来を考える視点を与えて考えを書かせるなどの工夫も必要であった。

## Ⅷ 提言

本研究で、生徒が自分の考えを自己評価する活動を通して自分の考えを調整し、考えを深めることができた姿は、評価を学習改善に生かすことができた姿と言える。このような評価を生かした学習改善の実現のためには、取り組みやすい単元で、自己評価を取り入れた授業を継続的に実践することが必要である。それにより、学習内容や他者の考えを通して自分の考えを自己評価することが、単なる振り返りではなく、考えを調整し、考えを深めるために有効な学習方法だと生徒が実感し、より効果的にこの方法で考えを深めていくことができるようになると思う。本研究は、単元を貫く課題の種類によって、自己評価のタイミングや評価の視点にアレンジを加えることで、地理的分野だけでなくどの分野でも実践が可能である。さらに、単元を貫く課題に対してもった自分の考えを、単元を通して自己評価し調整していく姿は、「主体的に学習に取り組む態度」の見取りとしても活用できると考える。

### <参考文献>

- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 社会】』 東洋館出版社（2020）
- ・田中 博之 著 『「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引き－学ぶ意欲がぐんぐん伸びる評価の仕掛け』 教育開発研究所（2020）

### <担当指導主事>

西原 和久 山中 英史